

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

2015年度 第2回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 11
12
13
- 開催日時：2015年7月14日（火）18時30分～20時30分
 - 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
 - 出席委員：五十嵐強、竹谷陽子、辻信明、野崎信行、安富眞理子、渡辺真也、
渡辺裕一<以上7名、敬称略、五十音順>
 - 出席職員：丸木福祉活動推進課長、中澤ボランティア・市民活動センター係主任、嶋田主
事、長山コーディネーター

14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2015年6月) P1
資料 2：コーディネート状況等月次報告(2015年6月) P2
資料 3：ボランティアコーディネート実績(2015年6月) P3～4
資料 4：2015年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（7～8月）P5
資料 5：2015年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録
<未定稿> P6～10
資料 6：ボランティア・市民活動センターの役割と現状 P11～13
資料別冊：2014年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>
配布資料1：2015年度災害ボランティア養成講習会について
配布資料2：ぼらんていあ倶楽部第85号

30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

1. 報告事項

(1). 2015年度6月～7月西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

○事務局より資料1～4に基づき、2015年6月から2015年7月末までの業務について報告を
行う。

○以下、質疑、協議が行われる。

委員長：質問をお願いしたい。

事務局：夏体験ボランティアの申し込み状況は、昨日までで80名となっており、内訳は、中学生以
上が約60名、小学生が20名程。本日も7名の申し込みがあった。

委員長：昨年と比較してどうか。

事務局：出だしは好調である。

委員：北多摩北部ブロックボランティア担当者連絡会の内容については、報告が主となるものなの
か、それとも具体的な連携を伴うものなのか。

事務局：その時々で変わる。情報共有を図ることが主となることもあるし、具体的な連携による取り
組みを模索することもある。

委員長：夏！体験ボランティアで社会人のボランティア参加者はいるのか。

事務局：今年も市内の企業で働く方や学校の先生が体験ボランティアに参加している。

委員：学校の先生は、社会体験をすることが都の研修に組み込まれている。

1 委員長：ケアマネ交流会について、説明してほしい。
2 事務局：地域包括支援センターが主催し、ケアマネージャーとの連携強化のために開催された。地域
3 包括ケアシステムに係る、地域サービスの担い手として、ボランティア活動が注目をされて
4 いるので、ボランティア活動やボランティア・市民活動センターの機能をケアマネージャー
5 に伝えることを目的とした。西東京ボランティア・市民活動センターのPRにもなった。
6 委員長：行政がいこいなカフェという取り組みを始めるそうだが、動向がわかれば教えてほしい。
7 事務局：いこいなカフェについての詳細は把握していない。
8 委員：小学生の参加が20人程度と聞いたが、小学生は市内に何人くらいいるのか？
9 事務局：チラシは、約1万枚程度を配布している。
10 委員：チラシの配布枚数を考えれば、もう少し申し込みが来そうに感じる。
11 事務局：問い合わせは来ているが、申し込み時に本人が窓口に来て申し込むことが条件になっている
12 ため、まだ来ることでできていない人がいると思われる。
13 委員：小学生にボランティアということ言葉を伝えても理解することが難しいと思うので、この
14 ような機会に合わせて、小学校に働きかけができるとうよいと思う。また総合学習の機会など
15 も活用できると良いと思う。
16 委員長：申し込み時に本人が窓口に来て申し込むことは、ハードルが高すぎるのではないか。
17 事務局：本人や保護者に、参加するにあたっての心構えや注意事項を伝えるための場となっており、
18 責任を持って活動先につなげる上でも必要な場であると考えている。人数を増やすという点
19 では矛盾するが、ご理解をいただきたい。
20 委員：市内の小中学校で車椅子体験の授業があったが、市内の学校との話し合いの場が持たれている
21 のか。
22 事務局：先生の間で口づてで伝わることで広まっていると聞いている。
23 委員：やる内容は、それぞれの学校が決めているようだ。
24 委員：その時に体験したことが具体的なアクションにつながっていないと感じる。車椅子の人は大
25 変だからかわいそうということで終わるのではなく、大変な思いをしている人のために何か
26 していかなくてはいけないというような働きかけにつながった方が良い。そうでないとボラ
27 ンティアは増えないと思う。
28 事務局：そのように努力していきたい。
29 委員：校長会の場を活用できると良いと思う。

2. 審議事項

(1). 2015年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

●2015年度第1回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。

3. 協議事項

(1). 2015年度事業と2016年度事業の方向性について

委員長：質問をお願いしたい。

委員：多くの内容がこれまでも課題として確認されてきた内容である。具体的なアクションを起
こしていかないと改善されないのではないか。

- 1 委員：ボランティア活動とはという点についても、この場で十分に共有されていないのかもしれないし、具体的な取り組みについてもなされていないのかもしれない。ボランティア活動者として活動してくれそうな人がいることは分かっている、具体的な方法を複数検討して、どのように取り組んでいったのかも定かではない。資料で示されているものについても、さらに具体的な方法について協議して、取り組んでいく必要がある。ひとつひとつを具体的に計画的に動かしていく時期なのではないか。とりあえず、今年度の取り組みについて、しっかりとしたプランを作っていく必要があると思う。
- 2
3
4
5
6
7
- 8 委員長：ボランティア・市民活動センターがやらなければならないことが、社会的にも求められてきている。どのように関わっていくかあげてもらいたい。
- 9
- 10 事務局：今年度の新しい取り組みとしては、まずミニ講座があるが、これはボランティア活動を身近なものとして、気軽に取り組むことができるようにするためのきっかけを得るためのものとしている。ボランティアは簡単に始めることができるものであるということを伝えたいと思っている。次に、多様性の理解が挙げられる。地域にはいろいろな立場の人がいるということを知り、互いに支え合うために理解し合うためのきっかけの場を作りたいと思っている。資料には、西東京ボランティア・市民活動センターの課題が記されているが、西東京ボランティア・市民活動センターを知ってもらうと共に、ボランティア活動を広めていく必要がある。具体的な取り組みとして、できていないこと、できていることがある。今年度については、たくさんある課題の中から、取り組めるところに取り組んでいる。
- 11
12
13
14
15
16
17
18
- 19 委員：来年度に向けて、さらにアイデアを出していく必要がある。
- 20 事務局：反省すべき点なのでもあるが、例えばボランティアを増やすことについて具体的な目標値を定めていない。増やしたボランティアをどのような活動に結び付けていくのかも考えられていない。ただ漠然とボランティアを増やそうという動きをしているが、市内で必要とされている活動と必要とされるボランティアの数を把握したうえで、ボランティアの活用を図っていないところが問題なのかもしれない。今からでも、必要とされる活動と必要なボランティア数については定める必要があると思っている。戦略が欠けているのだと思う。
- 21
22
23
24
25
- 26 委員：市内の人口は約20万人で65歳以上の高齢者が4万5千人いると聞いている。この数字から判断すると、ボランティアの活動者数は、まだまだ増えるのではないかと思う。そのためには、ターゲットを定め、どのような戦略を持って取り組んでいくのかが、重要となる。
- 27
28
- 29 委員長：数値化も大切ではあるが、中身が大切だと思う。具体的に取り組みを行って、それを見返して、さらに具体的な取り組みにつなげていくことが大切である。
- 30
- 31 委員：多くの課題が挙げられているが、実際に業務を担っている人でないといけない部分がある。我々が取り組むということではなく、職員の目線をも大切にしてできること、できないことを精査する必要がある。そうしないと結果として進まないということになってしまう。何年後かを見据えて、できること、したいこと、できないことを考える必要がある。一度にやるには多すぎる。
- 32
33
34
35
- 36 委員長：ボランティア活動は構えて大それたことをするというわけではなく、小さなことから始められるもので、このようなものの積み重ねによるものだと思う。登録はしていなくても、ボランティア活動をやっている人はいる。そういう人の思いをくみ上げることが大切であり、自分のやっていることが全体の取り組みにつながっていることが見えるということが大切である。
- 37
38
39
40
- 41 委員：入口はたくさんあってよい。小さなことでもボランティア活動であることを気づかせること

1 が大切だと思う。

2 委員長：ふれまちや地域福祉コーディネーター事業など地域活動の取り組みとボランティア・市民活
3 動センターとのかかわりはどのようになっているのか。

4 事務局：うまくつながっていない部分もあるが、西東京ボランティア・市民活動センターは、地域で
5 活躍する人を見つけ、研修や学習の機会などを経て、地域に送り出すポンプ役のような役目
6 を果たすものと思っている。ふれまちや地域福祉コーディネーター事業で発見されたニーズ
7 をその人材につないでいくことができる良い。今、西東京ボランティア・市民活動センター
8 で担っているコーディネートは、できれば身近な地域の中でコーディネートできた方が良い
9 と思う。現在のコーディネートを地域に移していき、西東京ボランティア・市民活動センタ
10 ーは新たな役割を果たしていくことが好ましいと思っている。実際にやっている部分もある
11 が、もっとシステムチックにできるようにして、ボランティア活動者を増やしていきたい。
12 地域福祉コーディネーターのように地域に出ていき、地域のニーズを見つけて、解決するた
13 めの人材を育成するために講座を実施するようなことが必要だと思う。受身的に入ってくる
14 ニーズだけを基に講座を組み立てているのが現状であり、なかなか先手を打つことが体制的
15 にも難しい。ボランティア・市民活動センターの存在が、市民に知られていないことは大き
16 なた課題だと思っており、どうやったら知ってもらうことができるのかを単なる広報に頼るの
17 ではなく、職員の動きの中で伝えられたら良い。実際に地域福祉コーディネーターは、大き
18 なた広報媒体を持たないが、地域の中では知られている。それはその動きによって知られてい
19 るのだと思う。こうした動きをボランティア・市民活動センターでも考える必要があるので、
20 何か良いアイデアがあればいただきたいし、戦略を考えていきたい。

21 委員：ボランティアであっても、何らかの結果が出ていないといけない。ふれまちの話が出たが、
22 社協そのものも知られていないし、役割を理解している人はさらに少ないと思う。何らかの
23 成果があると、それが口コミなどで広がっていく。数字も一つの成果ではあるが、感謝の言
24 葉が飛び交うような活動が広がることで、自分もボランティアをやってみようかなと思うの
25 ではないか。新しく活動を始める人にとっては、躊躇する場面もあるかもしれないが、活動
26 によりこのような成果が出ているということを示せば、活動に参加することを躊躇するこ
27 ともなくなっていくと思う。

28 委員：先ほど話にあった、小学校での体験学習についても、教員間の口づてではなく学校との公的
29 なつながりがあるべきではないか。西東京ボランティア・市民活動センターが抱える
30 課題解決を図っていくのであれば、この場で具体的な取り組みを決めて進めていくべきで
31 ある。学校に正式にアポを取り具体的なアクションをすることで、子どもたちに福祉や社協、
32 ボランティア・市民活動センターの活動を伝えることができる。そうしなければ広がらない。

33 委員長：今お話しいただいたことひとつを例にとっても、これだけの課題が出てくる。ポイントとな
34 るものをいくつか挙げ取り組んでいくことがベストである。

35 委員：校長会で情報提供をすることにより、自分の学校でお願いしたいと思う先生はいると思う。
36 ただし、小学校なのですぐにボランティアを始めようということにはならないと思うが、学
37 校の近くに高齢者の施設がある場合などは、学校と施設の間でつながりを持っていることも
38 あり、子どもたちが高齢者の方から感謝をされることで心地よさや喜びを感じる場面があり、
39 教員の立場からすれば、大切にしている部分でもある。このようなことができるということ
40 をアナウンスしないとなかなか進まない。

41 委員：学校の授業での取り組み自体はボランティアではないかもしれないが、「こんなに喜んでくれ

1 るのであればもう一回行きたい」と思ったら、その思いはボランティアにつながるものであ
2 る。その思いがボランティアであるということを子どもたちに伝えていくためには、学校と
3 協力し合うことが大切である。無償の活動をさせられたまま終わるのではなく、やりたいこ
4 とをやる活動であることを伝えられるような働きかけをきちんと行いたい。そのことでボラ
5 ンティアの意味を理解できるようになるかもしれない。学校に正式にコンタクトを取り、継
6 続してそこにかかわることのできる仕組みをつくることで、ボランティアをしたいと思った
7 時にボラセンに連絡が入る仕組みを作っていくことを計画してやって行けば、良い仕組みが
8 できるような気がする。

9 委員長：小学生、社会人、子育て中の母親、高齢者など、いろいろな立場の人たちがいるが、それぞ
10 れに持っているテーマが違うので、一緒にすることはできない。必要なことは、今ボラセン
11 は何に取り組むべきで、その次には何に取り組むかということである。そのことを決められ
12 ないと毎年同じ取り組みになってしまう。

13 委員：今話されている内容については、現状を把握することなのか、今後を考えることなのか、
14 入り混じっておりわかりにくくなっているように感じる。資料についても同様の部分があり、
15 理解しにくくなっているように感じる。課題が分散しているように感じるのもう少しまと
16 めることでわかりやすくなる。現場が日々感じること、社会が求めること、運営委員が求め
17 ることといろいろあると思うが、運営委員は現場がしていることをサポートしたり、アドバ
18 イスをしたりするものだと思う。昨年までの運営委員会で出された課題の中から、全てに取
19 り組むのは難しいと思うので、現場を担っている職員より具体的な取り組みを選択してもら
20 い、何年か掛けて行われるその取り組みをサポートしていきたい。

21 委員長：具体的な取り組みについて絞り込んでいくことが、今回の運営委員会のテーマではないかと
22 思う。

23 委員：介護保険法改正に伴い、要支援の人たちの行先を考える必要がある。通所介護の事業者とボ
24 ランティア・市民活動センターは現在接点がないと思うが、協力してやっていくことができ
25 るのか、ボランティアだけで要支援者向けの取り組みをすることができるのか考えさせられ
26 ている。ボランティアとはどのようなものなのかというところからボランティア活動を始め
27 るのもよいが、既に分かっているニーズの充足のためにボランティア活動を始めるのも必要
28 だと思う。事業者とボランティアとの協力関係についても考えていきたい。

29 委員長：ボランティアという言葉上で一括りにされているが、ボランティア像はたくさんあり、それ
30 ぞれに違う。

31 委員：地域活動とボランティアが混同されているように感じる。ただこのような活動はこれからも
32 増えてくると思うので、入口がボランティアでなくとも、共感してボランティアに結びつく
33 ようにしていく必要がある。

34 委員：市から具体的な申し入れなどが来ているのか。

35 事務局：社協としてもかかわっていくための動きをしている。仕組みとして行う部分と内容に賛同し
36 ボランティア活動として行う部分の両面から考えていく必要があると思っている。この場
37 では、ボランティア活動として自発的に取り組み、問題の解決に当たる人をどうやったら増や
38 していくことができるかを考えることがボラセンに求められると共に、問われていると思
39 うので、早急に考えなくてはならないと思う。

40 委員：ボランティアのみで行う取り組みは、ニーズを解決するための仕組みに組み込まない方がよ
41 いのではないかと。行政は必要な受け皿を作るための準備を行わなければならないが、地域で

1 思いを持って活動している人たちは、ボランティアである以上、個々の状況が変わった時な
2 どには、やめることができるようにしておかなければならないし、制度を作るうえでの絶対
3 的な必要数に加えるべきではないと思う。ニーズを解決するためにできた制度は、やめるこ
4 とができないので、それをボランティアだけで運営されている団体で補うことは、難しいと
5 思う。

6 事務局：ボランティアの力が必要だと感じ、始めた活動に対して、行政がニーズ解決のための人数を
7 割り振ったとしても、自発的な活動であればボランティア活動なのではないかと思う。ただ
8 し、ボランティアの都合によりやめることができるということが前提になると思う。ニーズ
9 の受け皿として市民の活動が必要であるということは、歴然としておりそこにボラセンがど
10 のように支援をすることができるのかという点については、考えていかなければならないと
11 思う。

12 委員：使命感を持って取り組むのであれば、サロン活動を行っている人を支援するためにボランテ
13 ィア発掘キャンペーンなどの具体的な取り組みを戦略的に行う必要があると思う。また、実
14 際に取り組んでいる人の声を届けることで、ボランティアとして賛同してくれる人を
15 増やしていく必要がある。このようなことを行うことで、地域活動が活発になり、人のつな
16 がりもできるのではないかと思う。

17 委員長：ボラセンの役割に対する期待が高まっている。具体的な取り組みを決めていくためには、時
18 間がかかるかもしれないが、行政から言われて取り組みを進めていくということではなく、
19 支え合いが必要であるということなど、ボランティアの意義の理解から進めていくものでな
20 いかと思う。

21 委員：これから行っていく事業を目標に向けてどのように実施していくかという計画が大切だと思
22 う。今年度に残っている事業について、ただ実施するのではなく、目標達成のために次につ
23 なげるための仕掛けをして、意図をもって作り上げ取り組んでいくことが必要である。これ
24 まで行ってきたものに加え、別のやり方を考えて作り込んでいくとこれまでと違った結果が
25 得られるかもしれない。

26 委員長：次回以降、具体的に絞り込んだ形を考えて行きたい。

27 28 29 **4. そ の 他**

30 31 **(1). 次回運営委員会開催日程について**

32 ●以下の内容を確認した。

33 ■開催日時：9月8日（火）18時30分より

34 ■開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）

35 ●以上をもって、2015年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協
36 議を終了し、閉会した。